

# 国語科学習指導案

日 時 令和元年5月17日(金) 第1校時  
対 象 3年5組 (計40人)  
指導者 教諭 吉川 真悟

## 1 単元(教材)名 学びをつなげる授業「名作との再会」 (資料:太宰治「走れメロス」三省堂2年)

## 2 単元設定の理由

### (1) 教育的意義

近年、AI、すなわち人工知能システムの発展はめざましく、企業などの労働環境はもとより、一般家庭にも急速に普及が進んでいる。情報処理速度において人間の遙か上をいくAIは、これまでの生活を大きく変化させる可能性を秘めており、現代社会においても無人のレジや事務作業の電子化など、すでに人の手からAIへと渡った仕事も少なくない。また、スマートフォン等の情報端末の普及により、世界中の情報を一瞬のうちに手に入れられるようになったことで、一個人が膨大な情報を手軽に手に入れることができるようになり、様々な課題の解決の仕方も大きく変わりつつある。また、コミュニケーションの手段として電子端末同士の情報交換が一般化した昨今、その内容は簡略化され、より記号的な機能重視のものに変容しつつある。現代の中学生が社会に進出するころには、社会は今よりもいっそう高速化し、多くの作業が機械や人工知能に代替されることが予想される。そのような社会の中で、人間に求められるのは、人間にしか為し得ない、創造的なアイデアを伴った交流であり、そのためには、自分の考えていることを相手にしっかりと受け取ってもらうことが必要不可欠である。電子端末を用いてのコミュニケーションは質よりも量や効率性が重視され、それに慣れ親しんだ現代の中学生は、「思い」を相手に届けたい、自分の言葉で気持ちを伝達して相手にわかってもらいたいという欲求を抱えながらも、相手になかなか伝わらずに関係性のこじれにつながったり、表面的なやりとりにとどまったりしてしまうことも珍しくない。また、現実世界でのやりとりが不足しがちなため、何かを伝えようとする際にその対象となる「他者」を具体的にイメージすることができず、コミュニケーションがひとりよがりになってしまったり、伝えたいものが十分に受け止められていなかったりするという事態も起こりがちである。

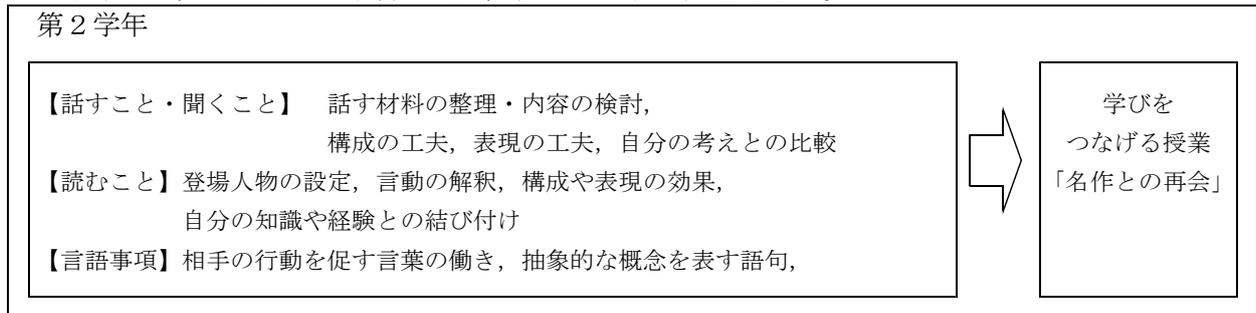
相手に自分の思いや考えを届け、共感してもらったり、相手の行動に変容を起こしたりするには、「伝える」という行為の準備過程や「伝える」行為そのものに、相手を強く意識することが必要となる。そのため、国語科の学習においても、ただそれぞれの「読み」を交流するだけではなく、その「読み」の伝達によって聞き手の「読み」に変化を起こしたり、他者意識を念頭に置いた「読み」に取り組みせたりしたいと考えた。そして、学習や生活体験の中で得た力や知識を結びつけながら、相手に自らの思いを的確に伝える力を付けさせるため、本単元を設定した。

まず、指導者が小学校時の教材を用いた発表を行い、改めて読むことでわかる作品の魅力について学習者に伝え、「読み直す」ことの有用性について感じさせる。次に、2年時に学習し「読み」を深めた「走れメロス」を、もう一度読んでいくことを告げる。生徒は2年時にそれぞれのクラスで自分たちが作った学習課題を解決する活動を通して「読み」を深めており、そのときのワークシートを使いながら、それぞれのクラスでどのような学習課題を解決していったかを軸に「読み」の交流を行わせ、再読によって「読み」を深めさせる。次に「担任の先生に、もう一度『走れメロス』を読みたいと思わせるためにはこの作品をどのように紹介すればよいか」という学習課題を示し、担任の先生の「走れメロス」に対する現段階の印象や解釈を伝える。そして、それらの印象や解釈には含まれていない、「走れメロスの魅力」について考えさせていく。その後、4人班を作らせ、個人の「読み」を班で整理しながら、より他者に伝わりやすいように構造化していく。これらの活動を通して、作品から受けとめた内容を、伝える相手に寄り添った形で再構築し、「読み」の深まりと他者意識の高まりを図ることをねらいとしている。また、単元の終末には、実際に職員に対する発表を行い、反応を得ることで活動全体を振り返り、最後は個の「読み」に立ち返らせたい。

このような言語活動の中で、他者により詳しく、わかりやすく伝える意識を育てながら、最終的には個人で具体的な他者像を描き出せるように指導をしていく。そうすることで、より自己内対話が充実し、自ら課題を作り、自ら自分の「読み」を深めていけるようになることを考える。

**(2) 連関的意義**

本単元は、これまでの学習内容と、以下のような関連をもつ。



**3 単元の目標及び評価規準**

**【単元の目標】**

- (1) 「走れメロス」で用いられている語句や表現に着目しながら，それらの語句や表現がもたらす印象や文章の質感などを感じ取り，語感を磨き，語彙を豊かにしている。  
(知識及び技能 (1) イ)
- (2) 「走れメロス」をもう一度読みたいと思わせるために，読み取った内容や，気付いた魅力などを，過程や理由，根拠，意図まで含めてわかりやすく説明することができる。  
(思考力，判断力，表現力等 A「話すこと・聞くこと」イ)
- (3) 相手にもう一度「走れメロス」を読みたいと思わせるという目的をもちながら「走れメロス」を読み直したり，自身の「読み」をより他者にもわかりやすい言葉で表現するために整理したりする活動を通して，細部の表現や物語の構成，登場人物の描かれ方を捉え直し，作品の新たな魅力に気付くことができる。  
(思考力，判断力，表現力等 C「読むこと」イ)
- (4) 「走れメロス」をもう一度読みたいと思わせるような発表をするという言語活動を通して，2年時の学習内容を想起するとともに，自身の読みを深めようとしたり，他者を意識した伝え方について考ようとしたりすることができる。  
(学びに向かう力，人間性等)
- (5) これまで学習してきたことを関連付けながら，「走れメロス」をもう一度読みたいと思わせるような発表を考えることができる。  
(学びをつなげる授業)

(1)～(4)については，以下を重点的に指導する。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
		話すこと・聞くこと	読むこと	
評価規準	<p>① 語句や表現に着目し，それらが登場人物の人物像や文章全体にどのような効果を与えているかについて考えを深めることができる。</p>	<p>② 自分が「走れメロス」から読み取り，発表に用いたいと考える内容を，同じ班の人たちにわかりやすく伝えることができる。</p> <p>③ 自分たちの班の考えを，過程や理由，根拠，意図まで含めて発表したり，想定される他者の考えを想像しながら聞いて適切な助言をしたりすることができる。</p> <p>④ 自分が「走れメロス」から読み取った魅力を，相手に伝わるように工夫しながら伝えることができる。</p>	<p>⑤ 2年時の「走れメロス」の学習で学んだことや自身の「読み」を想起しながら，本文中で用いられている表現や構成，登場人物の描かれ方を捉え直し，作品世界への理解を深めることができる。</p> <p>⑥ 読み取った内容を構造化し，他者に説明する中で，自らの「読み」を客観的に見つめ，「読み」を深めることができる。</p>	<p>⑦ 「走れメロス」で学んだことや自身の「読み」を想起しながら，改めて作品の特徴や魅力について考えようとしている。</p> <p>⑧ もう一度「走れメロス」を読んでもらうためには，その魅力をどのように伝えればよいかについて，伝える相手を意識しながら考えようとしている。</p>

(5)は「学びをつなげる授業」としての評価となる。「学びをつなげる授業」とは，本校国語科が平成28年度から継続的に取り組んでいる特設単元であり，それまでの国語科での学習内容を相互に関連付けながら課題を解決することで，その後の学習や生活に役立てることを目的としている。今回は，2年時の学習内容と本時の課題解決をどのようにつなげていくかを評価の対象としていく。

## 4 単元の指導計画

### (1) 単元設定の視点

#### ア 生徒の実態から

本学級の生徒には、次のような実態が見られる。

- ・ 国語に対する関心が高く、落ち着いて授業者や発表者の声に耳を傾けることができるが、自分の意見と他者の意見を比較して再考したり、他者の考えをふまえて自分の考えをより深めたりすることに課題がある。
- ・ 独自の考えや個性的なアイデアをもっているが、それらのよさを相手に分かってもらうために根気強く説明したり、より説得力をもたせるために言葉を吟味したりすることができず、「伝わらなかった」ことに対してもあまり気にする様子が見られない。

このような実態から、一度学習して自分の中で「読み」の終着を迎えた「走れメロス」を再度読むことで、過去の自分や他クラスで別の課題を解決した者との「読み」の比較を行わせ、より考えを深めさせていきたい。また、「担任の先生がもう一度走れメロスを読みたくするにはどのような点をどのように伝えればよいか」という明確な「他者」と「伝える目的」を与えることによって、能動的に言葉を取捨選択したり、伝える内容をよりわかりやすくしたりする姿を生み出したい。

#### イ 本校の研究内容との関連から

##### (7) 研究主題との関連について

###### ① 『ことばの力』を生かして伝え合う』との関連について

本単元では、2年時に学習した「走れメロス」を、中学時に一度「走れメロス」を学習したであろう担任の先生にもう一度読んでもらうには、どのような点を、どのように紹介すればよいかという観点をもって再読させることで、2年時に学習したときよりも読みに深まりをもたせたり、自分の読みを他者がより共感的に理解できるようにわかりやすく言語化したりできるようになることをねらいとしている。そのためには、自分の「読み」を、そこに至る過程や理由、根拠まで含めて、言葉で捉え直し、整理していく必要がある。また、他の班との交流においても、その班がどのような過程をたどってそのような結論に達したのかを的確に理解していくためには、内容を言葉で正確に捉え、自分のもちうる語彙へと変換して意見を交換していかなくてはならない。

様々な視点をもちながら何度も再読していくことによって、ひとつの言葉や表現を様々に言い換えたり、他者の解釈を取り入れたりといった活動を繰り返すことで、語彙力や言語感覚の高まりが期待できると考える。

###### ② 「他者を意識した『受けとめる活動』『伝える活動』との関連について

本単元では、2年時に学習した「走れメロス」を様々な視点から何度も読み直しながら学習活動を展開していく。その読み直しの視点の中に、他者に対する意識が入ることによって、「受けとめ方」にも変化が生じていくのではないかと考える。つまり、「伝える活動」を念頭に置いた「受けとめる活動」を行うことによって、内容の構造化がより客観的視点で整理されたものになったり、自分の中にはもち得なかった視点で作品と向き合えるようになっていたりすることが期待できる。これらの活動を通して、本校研究における「Society5.0で求められる資質・能力」である『読み解き・対話する』ことに関わる資質・能力や『思考・吟味する』ことに関わる資質・能力を高め、受け取り手に「走れメロス」の新たな「価値を見つけさせる」ような説得力のある「読み」の形成をねらいとしている。

##### (4) カリキュラム・デザインとの関連について

###### ① 年間計画のデザインとの関連について

本年度より本校では、各授業での学びをより自覚的に関連付けさせ、「学びをつなげる授業」の課題解決へと生かすことができるように、教科内で授業を【国語A】と【国語B：学びをつなげる授業】とに振り分けて並行して進めており、本単元「名作との再会」は【国語B】にあたる。生徒が2年時に学習した国語科における各領域の内容を相互に関連させながら、2年時の最後に【国語A】として学習した「走れメロス」を再度読み込むことで、生徒自身が一年間で身につけた力を自覚的に生かしながら学習に臨めるようになることを考える。また、そこで得た「学びのつながり」が、3年時の国語の学習に対する「学びに向かう力」へと向かっていくこともねらいとしている。

###### ② 単元計画のデザインとの関連について

本単元は「②形成型プロセス」の学習過程で展開される。学級全体に示された「学年の先生にもう一度『走れメロス』を読んでもらう」という目標に向かって、まず個で考えを形成する。そしてそれを班でまとめ練り上げていき、全体で共有するとともに実践させることによって、集団としての考えを深めていく。授業終盤で得られた成果や他者からのフィードバックを基に、最後は個による考えの深まりを単元シートやワークシートから見取ることとした。

(2) 単元の指導計画 (全7時間)

単元	主な学習活動	時間	指導にあたっての手立て	評価
導 入	1 小学校時に学習した国語の物語教材について、教師のプレゼンテーションを聞く。 2 2年時の「走れメロス」の学習内容をさらに読み深めていくためには、どのようなところに着目していけばよいか考える。	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校の国語教材を生徒がもう一度読みたくなるようなプレゼンテーションを指導者が行い、本単元では担任の先生がもう一度「走れメロス」を読みたくなるようにするにはどのような紹介をすればよいかを考えていくことを告げる。</li> <li>2年時の最後に自分が書いた「走れメロス」の感想(第三次)を読み返し、どのような部分にこれから目を向けられそうか考える。</li> </ul>	⑦ 【観察・発表】
展 開	3 担任の先生が「走れメロス」に対して現時点でどのような印象をもっているのかを確認するためのインタビュー内容を考える。	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>どのような質問をすれば、担任の先生の「走れメロス」に対する印象や解釈を引き出すことができるかについて考えさせる。</li> <li>インタビュー自体は国語の教科連絡員が代表で行うことを告げる。</li> </ul>	⑦ 【観察・発表】
	4 担任の先生の現時点での「走れメロス」への印象や解釈について確認する。 5 担任の先生の「走れメロス」の「読み」について、分析する。	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任の先生に対する「走れメロス」についてのインタビュー動画を確認させ、ワークシートに要点を記入させる。</li> <li>担任の先生の「走れメロス」に対する印象や解釈が、本文中のどこを根拠としているかについて、本文を再読させながら分析させ、ワークシートに構造化させる。</li> <li>構造化した「読み」の分析を各班に発表させ、内容を確認させる。</li> </ul>	①⑤⑥⑧ 【観察 ワークシート 単元シート】
	6 担任の先生にもう一度「走れメロス」を読みたいと思わせるためにはこの作品のどのような部分を伝えればよいかを考える。 7 班で意見を交換し、発表内容を発表ボードに構造化する。	1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>分析した先生の「読み」と、2年時の自分の「読み」を比較したり、本文をもう一度読み込ませたりすることで、先生の「読み」に含まれていない部分を捉えさせる。</li> <li>先生の読みに含まれていない部分から、再読させるために伝えるべき部分を考え、そう考える過程や理由、根拠まで含めて発表ボードに構造化させる。</li> <li>3分間の制限時間に収まるように、内容を精査させる。</li> </ul>	①② ⑤⑥ ⑦⑧ 【観察 ワークシート 単元シート】
8 それぞれの班で発表し合い、内容や発表の仕方に関する意見を交換する。 9 交換した意見を基に、本文をもう一度読み返しながら発表内容を練り直す。	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象となる先生がどのような反応をするかを想定させながら、自分と異なるグループの発表を聞かせ、意見を交流させる。</li> <li>交流した意見を基に、以下の内容について班で再検討させる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちが取り上げた内容は先生に再読を促すのに適していたか。</li> <li>自分たちが「読み」の根拠としていた表現は説得力があったか。</li> <li>自分たちが発表に用いた発表ボードはわかりやすくまとめられていたか。</li> </ul> </li> </ul>	③④ 【観察 発表ボード 単元シート】	
10 担任の先生に発表を行う。	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの班の発表で、「走れメロス」を再読したいという気持ちがどの程度高まったかを、理由まで含めて10段階で評価してもらう。</li> </ul>	④ 【発表】	
終 末	11 担任の先生からの感想を基に、学習のまとめを行う。	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際に先生が「走れメロス」を読みたくなったかどうかや、発表に対する意見を基に、「走れメロス」に対する最終的な自分の「読み」をまとめる。</li> </ul>	⑤⑥ 【ワークシート 単元シート】



(4) 本時の実際

時間	学 習 過 程	指 導 上 の 留 意 点	評 価 活 動
2'	<p>スタート</p> <p>学習目標と学習課題、学習の流れを確認する。 1</p> <p>(⑧ R,⑦ R ⑥ R,⑤ R)</p>	<p>&lt;導 入&gt;</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>「読み」を深める力や的確に説明する力を発揮して、担任の先生がもう一度読みたくなるように、私たちの「走れメロス」の「読み」を紹介しよう。</p> <p>&lt;学習課題&gt;</p> <p>先生にもう一度「走れメロス」を読んでもらうための魅力を探し、発表ボードにまとめよう。</p>	
15'	<p>前時に分析した学年の先生の「走れメロス」に対する印象や解釈を基に本文を再読し、どのような点を紹介すればもう一度「走れメロス」を読んでもらえるかを個で考える。 2</p> <p>(④)</p>	<p>&lt;展 開&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本文を再読しながら、先生の「読み」の中には表れていない「走れメロス」の魅力について考えさせ、どのような点を伝えればもう一度「走れメロス」を読んでもらえるかについてワークシートにまとめさせる。</li> <li>〈達成していない生徒への手立て〉</li> <li>担任の先生の「読み」には直接関係しない登場人物や、主要な登場人物の別の角度からの描かれ方などに着目させる。</li> </ul>	<p>○先生の「読み」と自分たちの「読み」の違いを比較したり、先生が気付いていない「走れメロス」の魅力を改めて考えさせたりすることで、他者を意識して「走れメロス」の読みを深められているか。</p> <p>(思考力、判断力、表現力等 C「読むこと」)</p> <p>(観察・発表ボード)</p>
20'	<p>個で考えた案を基に、班で意見を出し合い、発表ボードに発表内容を構造化させる。 3</p> <p>(③,②)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表時間は、ひとつの班につき3分間であることを告げ、どのような点を取り上げて発表をするか、方向性を班で決定させる。</li> <li>先生の視点に立ち、どのような伝え方をすればもう一度「走れメロス」を読みたくなるか、言葉選びや発表の構成なども含めて班で考えさせ、発表ボードに記入させる。</li> </ul>	<p>○伝える相手に即した伝える内容の工夫を考えられているか。</p> <p>(思考力、判断力、表現力等 C「読むこと」)</p> <p>(観察・発表ボード)</p>
10'	<p>班の意見を全体で共有する。 4</p> <p>(①)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現時点での発表内容や伝え方について、いくつかの班に途中経過を発表させ、他の班が取り上げる「走れメロス」の魅力や、伝えるための手立てを、自分の班と比較させる。</li> <li>他の班の発表を参考に、自分の班の発表内容や伝え方を練り直させる。</li> </ul>	
3'	<p>学習のまとめをし、次時の学習について確認する。 5</p> <p>ゴール</p>	<p>&lt;終 末&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元シートに本時の学びについて記入させる。</li> <li>次時では、本時に話し合った内容を、さらに本番の発表へと近づけ、班どうしで発表し合っていくことを告げる。</li> </ul>	<p>○他者を意識することで「読み」の深まりを感じられているか。</p> <p>(単元シート)</p>